

ふれあいレポート

～あなたの暮らしに音楽を～



山手町どんぐりバンド

私は、日ごろ南河内を活動拠点として、公民館や各種教室などでギターやウクレレ、作曲、歌などを指導しています。また、地元富田林を中心に月一回程度、地域社会に根ざした音楽にこだわって、レストランやカフェなどでコンサートを開催しています。今回、「音楽」に携わる者として、単に「音楽」を演奏し、聴くだけでなく、「音楽」を通じて地域社会で多世代がつながり、そして生涯学習へと発展する可能性を探るため、幅広い年齢層の音楽愛好家が集い、地域で活動を続ける「山手町どんぐりバンド」取材しました。

広報ふれあいレポーター 栗田 祐作(本町)

音楽のある暮らし

私は、音楽を生業としています。音楽で生計を立てるのは大変なこともたくさんありますが、それなりに楽しい毎日を送っています。

音楽家として、日ごろから願っていることがあります。それは、「ふだん使い」できる暮らしと環境の創造です。それが本来の「音楽のあり方」で、また「音楽家の使命」だと信じています。

何だか堅苦しい言い方になってしまいましたが、要するに「音楽のある暮らし」の提案です。

昨今は、残念ながら「生活すること」と「音楽すること」が、別のことになっている気がします。今の音楽は、「音楽会」のための音楽になりがちで、「家庭」の音楽からかけ離れてきています。音楽家自身も、音楽会のための音楽は勉強しますが、暮らしには音楽を生



栗田さん
ない場合が多いようです。また、聴く側も音楽会へは出掛けるものの、家庭や家族で音楽を楽しむというようなことが少なくなってきました。

これはつまり、音楽がどこか「よそゆき」になってきているからではないでしょうか。本来の「音楽」とは、ふだんの暮らしに自然と溶け込んだ存在だっただけです。

近ごろ、多くの人が自分たちの足を忘れ、遊園地やテーマパーク、富士山や沖縄など、遠くの美しい桃源郷ばかりを追い求めていくように感じられます。

しかし、豊かな風土や自然環境、そして人間関係が実は私たちの身近に当たり前のよう存在しています。その当たり前にもっと敬意を払い、大切に守りはぐくんでいくことが地域振興や文化発展、ひいては環境保護につながっていくのではないのでしょうか。

今、食の分野では大いに地産地消が推奨されていますが、これは「音楽」を含む文化活動全般にもピタリと当てはまることだと思えてなりません。

山手町どんぐりバンド

山手町の地域住民が自主的に結成・運営し、現在も精力的に活動する「山手町どんぐりバンド」という音楽団体があります。

このバンドは、プロの演奏家ではなく、アマチュアの音楽愛好家団体です。おむね20歳代から70歳代までの幅広い年齢層の地域住民が集会所などに集まり、毎週練習に励んでいます。

ピアノ、ドラム、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、琴、木琴、鉄琴、ハーモニカなどの楽器を使って、さまざまな音楽を表現していま



す。

また、アマチュアでありながら年間20回以上も演奏活動をする売れっ子バンドでもあります。

今回、甘南備にある楠妣庵観音寺で開催された「もみじまつり」に出演されるということで、取材に訪れました。

紅葉がきれいに色付き、空気がピリっと引き締まった晩秋の午後でした。

この日は、手品ショーやフラダンスなど、さまざまな余興が披露され、最後におそろいの衣装を身にまとった「山手町どんぐりバンド」の演奏がスタートしました。

懐かしの歌謡メロディーをはじめ、童謡や最近話題の音楽などをふんだんに盛り込んで聴かせてくれました。また、体を使っての手遊びや体操なども取り入れ、観客を飽きさせない気配りはお手の物です。

演奏中は、皆さん真剣そのものですが、一曲一曲やり終えたあとは、とてもうれしそうに、そしてとても楽しそうな表情を

されてきました。

すべての演奏終了後は、みんなで仲良くまかないのおでんとおむすびをほお張っていました。そのときの皆さんの充実した表情がとても印象的でした。



あなたの暮らつた音楽を♪

実は、私もかつてこのバンドに在籍していました。が、今になってメンバーの皆さんにとても感謝していることがあります。

それは、これまで接点の少なかった町内の人たちと「音楽」というフィルターを通して新しい交流が生まれたこと、また自分よりはるかに年上の皆さんと新鮮な気持ちで触れ合えたことです。そして、随所で支えられ、育ててもらえたということです。

このような

「支え合い」「助け合い」の精神は、音楽をしていると自然に磨かれて身に付くのもかもしれません。

私自身、音楽を通じて多くの人に出会いました。音楽にかかわる人それぞれが音楽を愛し、隣人を愛し、地域を愛し、暮らしを愛しているように感じます。

皆さんの暮らしにも、音楽があればいいなと思います。

生涯学習の可能性

山手町どんぐりバンドと出会い、何より感じたことは、学校で机に向かつて習う（主に暗記させられる）音楽では決して得られない、生の「生涯学習」がこのバンドには存在するということです。

今回私は、「音楽」によって通い合う人と人との心や、暮らしのあり方を提案しましたが、実はその表現手段は何だって良いと思っ



ています。

料理、生け花、写真、俳句、木工など、人それぞれ得手、不得手があるように、それぞれができることを気の合う仲間とコツコツ続けていけばそれで十分幸せなはず。

世の中には、さまざまな人が暮らしています。音楽に限らず身近に存在する活動を通じて、地域社会で多世代がつながり、そして生涯学習へと発展する、そんな可能性を今回の取材を通して、改めて感じることができました。